

学 園 報

No.40

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp>
 富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

理事長就任の挨拶



理事長
金岡 克己

このたび理事会のご推挙により理事長に就任した金岡克己でございます。もとより浅学非才の身ではございますが、よろしくお願ひ申し上げます。

『富山国際学園 50 年史』において、金岡祐一前理事長は、福沢諭吉の「烈々たる独立精神」を説き、富山県唯一の私学総合学園としての大きな実績、培われた伝統に触れておられます。

富山県の気風は官尊民卑と称されます。江戸の士農工商あるいは明治の官僚制の名残りでしょうか。しかしながら、広く世界を見渡せば、官に頼るしかないというのは、未熟な社会インフラ、乏しい人的インフラの証であり、後進国の象徴であります。

人類の豊かな未来を約束するもの、それは何ものにも囚われない自由な精神ではないでしょうか。前身である富山女子短期大学の設立に官が寄与したことは事実ですが、五十有余年にわたり、私学の精神を保ち社会の期待に応え続けたことに、大いなる誇りを持つべきと考えます。事実、短期大学の卒業生は2万人を数え、人口100万の富山県内に確かな足跡を残しています。

平成28年6月、選挙権年齢が18歳に引き下げられました。高校3年生の殆どが在学時に国政への参加権を持ちます。短大生、大学生は全員です。世界標準では分別のある大人の扱いといえましょう。高齢者ファーストのシルバー民主主義を阻み、日本の将来への期待を高めるうえで時宜を得た法律改正と思います。

一方、学生を子ども扱いしようという社会の風潮は

一向に改まりません。若者の純粋なパワーの発露をそして下剋上を恐れる。上から目線の人々、既得権益にしがみつくと守旧派の人々が多いということでしょう。

現代の学生はこのような狭間に立たされており、希望を見失う若者も絶えないと報道されています。残念なことに、日本の若年層の死因第一位は自殺です。前途ある学生と日々接する教職員の皆さまには、高いレベルの視野、幅広い教養、人生に対する定見が求められるのではないのでしょうか。

韓愈の『雑説』の一部を引用し、ご挨拶の終わりとさせていただきます。

「千里馬常有、而伯樂不常有」－千里の馬は常に有れども、伯樂は常には有らず

若者はさまざまな可能性を秘めています。教育とは、educate、本来あるものを引き出す営みです。素質ある若者がいないのではなく、才能を見出し育てる指導者がいない。原意は名君を求める比喻ですが、教育に携わる人々が忘れてはならない言葉と思います。

学園の歴史を紡いできた先人のご努力に心からの感謝を申し上げるとともに、富山国際学園の持続する発展に向け、皆さまの温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

CONTENTS

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| □理事長就任の挨拶 理事長 金岡 克己 …………… 1 | □平成29年度入試状況・平成28年度進路状況 …………… 5 |
| □特集1 理事長退任の挨拶 …………… 2 | □学園退職者・新任者一覧 …………… 5 |
| □特集2 富山短期大学 新学長就任の挨拶 …… 3 | □平成29年度予算概要 …………… 6～7 |
| □特集3 学園の地域連携の取り組み …………… 4 | □学園NEWS …………… 8 |

理事長退任の辞

富山短期大学名誉学長
北海道大学名誉教授
日本薬学会名誉会員 金岡 祐一



理系学徒として仕事の上で国内はもとより国際的に欧米で存分に暴れまくり、それなりの成果を得たと思う。そして退官、帰郷したのが平成3年。平成5年7月に義兄・幸二の急逝を受け、同年9月に学園理事長に就任。その時、学園はまだ発足以来、「初期の混乱状態」であった。そこで私の“Sturm und Drang”（疾風怒濤／ゲーテ）の時代が始まった。

前例の無い中での「学園をまとめる」という初期的チャレンジ。当然、個々の学校の任務は異なるが、当時はそれぞれ独立しバラバラであり、「総合」の概念は皆無。それぞれの活力を活かしながら「総合学園」の概念を創成するのが、私の使命だと覚悟した。

まず、継続的な「学園報」を出したいと思ったが、当時の事務局は「それは何ですか。一体何をお書きになるのですか？」というレベルであった。それに対する答は、第1号から39号に至る巻頭言で、私の一貫した総合学園実現への理想主張の軌跡である。

典型的国立大学の古狸（国立大教授25年）が、一転して富山では私学の代表。教育立国の日本。その中でも国公立優先気風の富山県のだ真中に、アテネの神殿の如き「私学の殿堂」を創設すると公言。「福沢諭吉」の烈々たる自立精神を精神的支柱として、国立大学教授25年の私が、定年後20余年私学にいること自体、文部科学省史上前例のない「怪人」であったらしい。

今は呉羽キャンパスの盛況を誇れるところだが、少子化の我国での教育力の維持は、特に私学では常に全力をあげねばならないと思う。財政力は今までのところ、やれるレベルと思う。今後とも何卒、各位の御理解、御支援、御鞭撻を願ひ上げます。

後任は、私が全幅の信頼をおく金岡克己新理事長であり、学園の一層の進化に向け御指導願う次第です。

これにて第1号から理事長の責任をかけ一貫して注

力してきた私の記録、巻頭言に終止符を打ち、安心して後任にバトンを渡します。秘書石坂佳美氏、運転手兼校務助手関原晃氏をはじめ、多年ご協力を得た事務局皆さんに感謝します。

略 歴

生年月日	昭和3年2月25日生
学 歴	東京大学医学部薬学科卒業（昭和25年3月） 薬学博士（東京大学）（昭和34年5月）
主な職歴	北海道大学医学部製薬化学科教授 （昭和41年4月～平成3年3月） 北海道大学薬学部長（昭和62年7月～平成1年6月） 北海道大学触媒化学研究センター長 （平成2年4月～平成3年3月） 北海道大学名誉教授（平成3年4月） 富山女子短期大学教授、教務部長 （平成3年4月～平成6年2月） 日本薬学会会頭（平成5年4月～平成7年3月） 学校法人富山国際学園理事長 （平成5年9月8日～平成29年5月） 富山短期大学学長（平成5年11月19日～平成24年3月） 日本学術会議第7部長（平成9年7月～平成12年7月） 日本薬学会名誉会員（平成10年4月） 富山県公安委員長（平成10年7月～平成11年7月） 富山県私学振興会理事長（平成12年5月～平成29年6月） 富山国際大学学長（平成13年7月1日～平成19年6月） 富山国際学園福祉会理事長（平成16年6月～平成29年5月） 富山短期大学名誉学長（平成24年5月）
専門分野	化学系物理系薬学、生物有機化学
受 賞 等	日本薬学会学会賞（昭和55年4月） 富山新聞文化賞（平成11年3月） 世界薬学会議・千年紀薬学者賞（平成12年4月） 光化学協会功績賞（平成13年9月） 富山県第1回「県民ふるさと大賞」 個人の部受賞（平成26年5月10日） 瑞宝中綬章（平成28年春）

老舗のリノベーション ～短大教育のストレングスと原点回帰～

富山短期大学学長 宮田 伸朗

中島恭一学長の後任として、4月1日から富山短期大学の学長に就任しました。新設の富山国際大学子ども育成学部に移って以来8年ぶりのカムバック。「今浦島」にならないよう、変化のスピードに対応しつつ、より良い進化に向けて努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

33年前、迷い抜いた挙句、福祉の現場から「女短」の教員に転じ、金岡幸二理事長名の辞令を初代学長近藤鋭一先生から頂いたのが昭和59年4月。短大は、創立20周年と商経学科の第1期生を送り出したばかりの「青年期」。当時の「青春クラブ」（アラフォー・アラサー世代）も、今では残り数名となり、まさに「光陰矢のごとし」。教職員の世代交代が確実に進んでいます。

ここ数年の間、短大はハード・ソフト両面でそれなりの成果を積み上げてきました。創立50周年・念願の第一期工事（F館・G館新築）、AP（文科省・大学教育再生加速プログラム）の採択、共に学ぶ学習環境の整備をはじめ、地元自治体・団体と連携した特色ある教育・研究・公開講座、学生のボランティア活動など、伝統と実績を踏まえつつ、積極的なチャレンジを続けてきました。

その一方で、「全国の大学人共通の悩み」とは言うものの、大学運営に関連・派生する業務が年々肥大化し、本来の教育・研究業務に必ずしも満足な時間がとれない状況が生まれています。以前によく唱えられていた合言葉「情報を共有し、みんなのベクトルを合わせて」も、今はあまり聞かれません。最近の学生定員確保の不安定性も、実に悩ましい現実です。

少子化・人口減少、四年制大学志向、新幹線によるストロー現象など負の環境要因。新しい学校種「専門職大学」創設、経常費補助金の薄撒きと競争的補助金の増大化も懸念材料です。県内外の大学の

大胆な新設・改組・再編・公立化、都心の大規模私大の地方サテライト容認など、短大は県内外他校との熾烈な「戦場」に直面しています。



中島前学長は、短大学長就任時の本紙面で、「教職員はその危機感を共有する必要がある」、短大が「地域における知の拠点、人材育成の拠点」として「地域社会から更なる評価と信頼を得ること」が重要であると述べられています。状況は、4年前よりも一段と深刻になっています。今こそ過去の栄光に安んじることなく、「周回遅れのフロントランナー」となりかねないことを自覚して、慎重かつ大胆な「老舗のリノベーション」、「オーダーメイドの改革」に取り組まなければなりません。

そのポイントは、至ってシンプル。「ストレングス」（自己肯定感）を堅持しつつ、短大教育の「原点回帰」に徹することです。①食と健康、保育・教育、福祉・介護、経営・情報のスペシャリストの養成という「教育目標」を見失わず、②主体的学びを育てる演習科目や学内外実習などを通して、一人ひとりの学習課題に対応したきめの細かいケア「教育指導」を行うことに尽きます。

金岡祐一前理事長は、かつて「challengeはcharmingになるchance」と述べられました。学生が「ここで学ぶこと」を誇りに思い、教職員が「たくましい次世代をここで育てること」に喜びを感じられる「魅力ある富山短期大学の再構築」への志（こころざし）と、校歌の神髄「清らなる知性、誠あるこころ」を胸に、「小さくてもキラリ輝く短大」をめざして、他校の追随を許さないフロントランナーのポジション獲得に向けて、学内外の皆さんとともに努力して参ります。

「学園知」×「地域知」による“知産知消”の拠点 『地域交流センター』

富山国際学園

富山国際大学地域交流センター長 村上 満

はじめに

本年4月1日から、大西一成センター長の後任として、富山国際学園・富山国際大学地域交流センター長の任に就いております。より地域に開かれた学園・大学を目指すべく、精一杯努めて参りますので、どうかよろしくお願いたします。

地域交流センターは、言うまでもなく、「学園知」と「地域知」の交互（相互）作用を図る「知の拠点」の代名詞とも言える場です。

そこで、その活動拠点ともなっている2つのサテライト（富山市、南砺市）での取り組みについて、これまでの成果と今後について抱負を述べてみたいと思います。

1. 10年目を迎えた「サテライト・オフィス」

平成19年より、富山市から無償で富山駅前CiCビル3階の部屋を借り受け、「富山国際学園サテライト・オフィス」を開設し、今年で10年目を迎えます。

現在は、富山国際大学地域交流センターが中心となって、「サテライト市民講座（12講座）」と「エクステンション・カレッジ語学（中国語・英語）講座」を開講しています。また、学外の著名人を講師とする「特別講演会」を毎年開催するほか、週末には、部屋の一部を高校生等に自習室として開放してきました。おかげさまでオフィスの年間のべ利用者数も毎年2,000人を超えるまでに至っております。

今後も地域のニーズを捉えた「生涯学習の拠点施設」となるべく、より充実した講座を提供することで、地域社会に貢献してまいりたいと考えております。



2. 1年目を迎える新たな拠点「南砺サテライト」

平成28年の南砺市地域包括ケアセンターの竣工とともに、本センターの2階に「富山国際学園南砺サテ



ライト」も設置され、まもなく1年を迎えようとしております。現在は、富山短期大学地域連携センターとともに、南砺市が抱える地域課題等を念頭に置いたテーマを中心とする「富山国際大学・富山短期大学リレー講座」を開講しています。そのほか、新たな試みとして、南砺市教育委員会との連携のもと、夏休み期間中、市内中学生の学習活動を本学学生が支援する場としても活用されることになりました。

まだ誕生したばかりですが、県内では2ヶ所目となる新たなサテライトとして、地域の人材育成と地域交流の拠点としての機能と役割をしっかりと果たせるよう、まさに地域に根ざした活動を今後、展開してまいりたいと考えております。

3. 知的交互作用を通じて、新たな価値を創造

富山国際学園・富山国際大学地域交流センターは、学園の構成員である教職員・学生一人ひとりが保有している専門的知識、技術（若い力も含む）である「学園知」を地域に還元するとともに、これまで地域に根づいてきた知恵、つまり「地域知」との循環の場でもあると思っております。

したがって、この「学園知」と「地域知」との知的交互作用を行うことにより、新たな価値を創造していくことそのものが、今後のサテライトとしての実績につながるものと考えています。

今後とも、身近な学びの場、気づき（築き）の場、さらには交流の場として、常に地域の方々とともに歩み、努力して参りますので、どうかご指導、ご支援のほどよろしくお願いたします。

平成29年度入試状況

大学

(平成29年4月4日現在)(単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	198	198	181	108
子ども育成	80	265	264	195	116
合計	200	463	462	376	224

※現代社会学部の合格者数には、第二志望合格9名を含む

短大

(平成29年4月4日現在)(単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	132	132	120	87
幼児教育	80	156	155	126	82
経営情報	110	189	189	171	119
福祉	60	41	41	43	37
食物栄養専攻	15	15	15	15	14
合計	345	533	532	475	339

※福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む

高校

(平成29年4月8日現在)(単位:人)

コース	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	1クラス	245	245	50
特進コース	1クラス	528	415	57
フロンティアコース	6クラス	631	625	163
合計	8クラス	1,404	1,285	270

平成28年度進路状況

(平成29年5月1日現在)(単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	87	80	80	100.0	4
子ども育成	89	84	84	100.0	3
合計	176	164	164	100.0	7

(平成29年5月1日現在)(単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
食物栄養	102	95	94	98.9	5
幼児教育	106	103	103	100.0	1
経営情報	115	109	107	98.2	3
福祉	33	31	31	100.0	2
食物栄養専攻	16	16	16	100.0	0
合計	372	354	351	99.2	11

(平成29年5月1日現在)(単位:人)

大学	入学者	合格者	短期大学	入学者	合格者	その他	入学者等	合格者	卒業生
富山国際大学	13	16	富山短期大学	32	32	専修・各種学校	59	62	248
国公立大学	15	16	公立短期大学	0	0	就職		41	
他の私立大学	78	119	他の私立短期大学	8	8	その他		4	
計	106	151	計	40	40	計		104	

※就職進学者2名を含む

平成29年度入園児童

幼稚園

(平成29年4月7日現在)(単位:人)

	入園児	在園児	計	男	女
3歳児	26	0	26	12	14
4歳児	0	29	29	14	15
5歳児	0	34	34	17	17
合計	26	63	89	43	46

平成28年度卒園児童

(平成29年3月31日現在)(単位:人)

	男	女	合計
5歳児	15	18	33

◆退職者一覧(平成29年3月31日)

- <大学> 村瀬 直幸(現代社会学部教授)
- 小西 英行(現代社会学部准教授)
- 小林 曜子(子ども育成学部准教授)
- <短大> 栗林 洋介(事務部長・学園本部事務局次長)
- <高校> 藤田 栄(副校長)
- 新村 リミ(教諭)
- 瀬川 哲示(教諭)
- <幼稚園> 青山 仁(園長)
- 村上 直美(教諭)

◆新任者一覧(平成29年4月1日付)

- <大学> 伊藤 葵(現代社会学部講師)
- 佐部利典彦(子ども育成学部講師)
- 倉田 東風(事務部主事補)
- <短大> 宮田 伸朗(学長)
- 高木 綾子(経営情報学科准教授)
- 中根 一恵(食物栄養学科助教)
- 円佛 利康(事務部長・学園本部事務局次長)
- <高校> 國分 亮(教諭)
- 小谷内勝一(教諭)
- 松原美穂子(教諭)
- Darren Hamilton(教諭)
- <幼稚園> 石動 瑞代(園長・幼児教育学科教授)
- 上野 彩香(教諭)

平成29年度 予算概要

平成29年度の事業計画および予算は、去る3月28日の評議員会・理事会において承認されました。

各校の主な事業計画および予算の特徴は以下のとおりです。

大学

子ども育成学部は、近年は安定的に入学定員を確保しています。しかし、入学者数が多すぎることにより、教育の質の確保や学生の学習環境の悪化などを招かないよう対策が必要です。一方、現代社会学部では慢性的な入学定員割れが続いており、平成29年度入学生は108名に留まる見込みです。副専攻プログラムを設けるなど志願者・学生確保に向けた努力を行っていますが、実際の学生募集に繋がっていない現実を開示しなければなりません。

大学の定員確保は学園の存続にかかわる重要事項であることから、教育内容の充実と共に、学生募集活動の効果検証等を十分に行い、定員確保をめざさなければなりません。予算では68百万円余りの黒字を見込んでいます。

主な事業としては、①所属する学部学科の教育課程(主専攻)に沿って学習する科目の枠を超えて、特定の分野やテーマ、学際的な分野等について体系的にまとめられたプログラム(副専攻)の実施、②日本高等教育評価機構による認証評価受審、③課外活動の環境整備として防球ネットおよびグラウンド補修等の実施などとなっています。

短大

短大は、全国的な四年制大学への進学志向の流れを受けて、近年は、短大全体でも入学定員確保が難しい傾向にあります。特に、福祉学科の定員割れの状況は著しく、「3つの学び」と称した「介護福祉分野・ソーシャルワーク分野・福祉ビジネス分野」を擁している学びの多様性が十分に志願者に認知されているとは言えません。今後も、この特色ある学科の周知に努め、定員確保に努めなければなりません。

短大では、学生数の減少は短期間で収支の悪化につながる傾向が見られ、今年度は43百万円の赤字予算となっています。志願者動向を把握することは難しいのですが、この状況を打開するためには、福祉学科以外の学科においても安定的に志願者・定員確保することが何よりも重要と言えます。

主な事業としては、①前年度に引き続きA P事業(大学教育再生加速プログラム)の目的である学修成果の可視化、学修成果の継続的な向上と教育の質保障の徹底を図るため、インフラ整備、基盤整備を進める、②福祉学科では、平成30年度から実施予定の介護職員実務者研修の開講準備を行う、③食物栄養学科および幼児教育学科が学科創設50周年を迎えることから、従来の特別講演会や研究会を50周年記念事業として行うなどとなっています。

高校

高校は、英語教育の充実やiPadを利用したICT教育が

資金収支予算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで (単位:千円)

	平成29年度予算額	平成28年度当初予算額	差異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,909,199	1,899,315	9,884
	手数料収入	39,289	36,907	2,382
	寄付金収入	1,905	9,640	-7,735
	補助金収入	657,166	691,399	-34,233
	資産売却収入	1	1	0
	付随事業・収益事業収入	31,762	31,416	346
	受取利息・配当金収入	10,220	10,220	0
	雑収入	100,193	90,045	10,148
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	465,991	464,841	1,150
	その他の収入	457,135	193,420	263,715
	資金収入調整勘定	-642,051	-593,501	-48,550
	前年度繰越支払資金	806,000	762,000	44,000
	収入の部合計	3,836,810	3,595,703	241,107
支出の部	人件費支出	1,701,233	1,649,104	52,129
	教育研究経費支出	587,546	549,291	38,255
	管理経費支出	129,249	140,973	-11,724
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	214,407	15,980	198,427
	設備関係支出	37,388	92,388	-55,000
	資産運用支出	338,987	370,967	-31,980
	その他の支出	136,500	98,500	38,000
	[予備費]	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	-156,000	-132,000	-24,000
	次年度繰越支払資金	832,000	795,000	37,000
	支出の部合計	3,836,810	3,595,703	241,107

事業活動収支予算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで (単位:千円)

	科 目	平成29年度 予算額	平成28年度 当初予算額	差異
教育活動収入	学生生徒等納付金	1,909,199	1,899,315	9,884
	手数料	39,289	36,907	2,382
	寄付金	4,907	11,342	-6,435
	経常費等補助金	657,166	691,399	-34,233
	付随事業収入	31,762	31,416	346
	雑収入	100,193	90,045	10,148
	教育活動収入合計(1)	2,742,516	2,760,424	-17,908
	人件費	1,710,233	1,659,104	51,129
	教育研究経費	907,046	857,291	49,755
	管理経費	131,548	143,472	-11,924
徴収不能額等	1	1	0	
教育活動支出合計(2)	2,748,828	2,659,868	88,960	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	-6,312	100,556	-106,868	
教育活動外収入	受取利息・配当金	10,220	10,220	0
	その他の教育活動外収入	1	1	0
	教育活動外収入合計(4)	10,221	10,221	0
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	10,221	0	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	3,909	110,777	-106,868	
特別収入	資産売却差額	1	1	0
	その他の特別収入	4	4	0
	特別収入合計(8)	5	5	0
	資産処分差額	25,900	9,300	16,600
	その他の特別損失	1	1	0
特別支出合計(9)	25,901	9,301	16,600	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	-25,896	-9,296	-16,600	
[予備費](11)	15,500	15,500	0	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	-37,487	85,981	-123,468	
基本金組入額合計(13)	-187,257	-68,178	-119,079	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	-224,744	17,803	-242,547	
前年度繰越収支差額(15)	-2,710,512	-2,789,783	79,271	
基本金取崩額(16)	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	-2,935,256	-2,771,980	-163,276	
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,752,742	2,770,650	-17,908	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,790,229	2,684,669	105,560	

平成 29 年度部門別事業活動収支予算書

(単位：千円)

全国的にも注目されるなど、教育の質の向上が評価されています。その結果、近年は安定的に生徒数を確保しており、収支状況においても 14 百万円弱の黒字予算となりました。今後は、生徒急減期に備えた更なる教育内容の充実についての検討が必要です。

主な事業としては、①情報室の充実とパソコン更新及び無線 LAN 増強設備工事など更なる ICT 教育の充実、②諸活動支援として、諸活動の実績を外部にアピールするため、懸垂幕昇降装置の設置や環境整備を行う、③生徒の安全対策として、グラウンドメンテナンスや防犯カメラ増設等を行うなどとなっています。

幼稚園

長年の問題であった園舎老朽化については、全面建て替えることが役員会で承認されました。しかし、幼稚園は大学子ども育成学部や短大幼児教育学科の実習園の役割を担っているとは言え、慢性的な赤字体質であることに変わりはありません。今後は、園舎改築において、過剰な施設とならないよう十分に検討することや、保育内容の更なる向上をめざすなど財務体質の改善に繋がるような努力が必要です。収支状況は、園舎改築という特殊事情もあり、221 百万円余りの赤字予算となっています。

主な事業としては、①園舎改築工事の実施、②平成 31 年度幼稚園型認定こども園への新制度移行に向けた諸準備を進めることなどとなっています。

学園全体

事業活動収支予算において、事業活動収入合計が 2,753 百万円 (対前年度当初予算比 18 百万円減・0.6%減) となっています。事業活動支出合計は 2,790 百万円 (同 105 百万円増・3.9%増) となり、これから基本金組入額を差し引いた当年度収支差額が 225 百万円の赤字予算となりました。

資金収支予算において、平成 29 年度の諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、付随事業・収益事業収入、平成 30 年度入学生の前受金、平成 28 年度末の未収入金の見込額等が計上されています。

一方、支出は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、施設・設備関係支出等が計上されています。その結果、平成 29 年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の資金として、3,837 百万円 (同 241 百万円増・6.7%増) が見込まれています。

学園の財政状況は、単年度予算ベースで赤字となりました。これは、幼稚園園舎の建て替えが大きく影響しています。しかし、今まで学園の財政を支えてきた短大において、赤字予算となったことも極めて重要な要因と言えます。これまで、呉羽キャンパスでの一連の施設投資は、短大が安定的に黒字を続け、自己資金を増やすことにより実施できたと言えます。従って、短大の財務状況悪化は、学

活動区分	科目	部 門	法 人	大 学	短 大	高 校	幼 稚 園	総 額	
教育活動収入	取事業の活動	学生生徒等納付金	0	840,339	660,887	384,005	23,968	1,909,199	
		手数料	0	12,578	15,056	11,625	30	39,289	
		寄付金	2	1,902	3	2,000	1,000	4,907	
		経常費等補助金	0	209,055	157,285	274,271	16,555	657,166	
		付随事業収入	0	16,401	9,052	0	6,309	31,762	
		雑収入	20,100	40,420	20,559	19,114	0	100,193	
		教育活動収入合計(1)	20,102	1,120,695	862,842	691,015	47,862	2,742,516	
		支事業の活動	人件費	58,032	610,559	551,371	450,843	39,428	1,710,233
			教育研究経費	0	372,889	295,154	196,657	42,346	907,046
			管理経費	11,636	54,329	48,037	16,549	997	131,548
徴収不能額等	0		1	0	0	0	1		
教育活動支出合計(2)	69,668	1,037,778	894,562	664,049	82,771	2,748,828			
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)		△ 49,566	82,917	△ 31,720	26,966	△ 34,909	△ 6,312		
教育活動外収入	取事業の活動	受取利息・配当金	10,020	100	100	0	0	10,220	
		その他の教育活動外収入	0	0	1	0	0	1	
		教育活動外収入合計(4)	10,020	100	101	0	0	10,221	
		支事業の活動	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
			その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0			
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)		10,020	100	101	0	0	10,221		
経常収支差額(7)=(3)+(6)		△ 39,546	83,017	△ 31,619	26,966	△ 34,909	3,909		
特別収入	取事業の活動	資産売却差額	0	0	1	0	0	1	
		その他の特別収入	0	0	4	0	0	4	
		特別収入合計(8)	0	0	5	0	0	5	
		支事業の活動	資産処分差額	0	14,600	5,100	200	6,000	25,900
その他の特別損失	0		0	1	0	0	1		
特別支出合計(9)	0	14,600	5,101	200	6,000	25,901			
特別収支差額(10)=(8)-(9)		0	△ 14,600	△ 5,096	△ 200	△ 6,000	△ 25,896		
【予備費】(11)		2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500		
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)		△ 41,546	63,417	△ 41,715	23,766	△ 41,409	△ 37,487		
基本金組入額合計(13)		△ 10	4,618	△ 1,989	△ 9,796	△ 180,080	△ 187,257		
当年度収支差額(14)=(12)+(13)		△ 41,556	68,035	△ 43,704	13,970	△ 221,489	△ 224,744		
前年度繰越収支差額(15)		—	—	—	—	—	△ 2,710,512		
基本金取崩額(16)		—	—	—	—	—	0		
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)		—	—	—	—	—	△ 2,935,256		
(参考)									
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)		30,122	1,120,795	862,948	691,015	47,862	2,752,742		
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)		71,668	1,057,378	904,663	667,249	89,271	2,790,229		

園全体に与える影響が大きく、早急な立て直しが必要です。

また、これから先、中長期的には学園全体で自己資金を増やす努力をしなければ、短大Ⅱ期工事、高校第二体育館建設、東黒牧キャンパス老朽化対策等に資金投資をすることが難しくなります。これからは、学園全体として財務状況強化のために、まずは安定的に志願者・学生生徒等を確保し、不要不急の事業の見直し(スクラップアンドビルド)、経費の節約などに努めなければなりません。

日本は、先進諸国の中でも例を見ない早さで超高齢化社会へと向かっています。同時に、少子化傾向にも歯止めがかかりません。国や地方自治体の少子化対策には、過度な期待ができないのが現状です。このような状況下では、私学経営は今後ますます厳しさを増していくことは確実です。特に、本学園と同様の地方中小規模の私学は、正に存続の危機と隣り合わせにあると言えます。

本学園が存続し続けるためには、建学の精神に基づいて質の高い教育を行い、地域社会に有為な人材を育成し、学園の存在意義を認めてもらうしかありません。我々教職員一同は、そのための努力を惜しまず、常に地域社会のニーズに関心を持ち、それに応えるべく一丸となって学園を発展させる努力を続けなければなりません。

富山国際大学

副専攻プログラムに28名がチャレンジ

平成29年度より新しい教育プログラム『副専攻プログラム』が始まりました。副専攻プログラムは、学部学科の教育課程に沿って学習する科目の枠を越えて、特定の分野やテーマ、学際的な分野等について体系的にまとめられたプログラムです。外国語コミュニケーション能力と国際的に活躍できる実践能力を身につけることを目的に、外国語科目、多文化共生科目を履修し、海外留学や国内外での国際活動、TOEICにチャレンジする「グローバル人材育成プログラム」と、課題解決力と実践能力を身につけ、地域創生で活躍できるリーダーとなり得る能力を身につけることを目的に、地域志向科目を履修し、種々の課外地域活動、地域課題解決型調査研究活動を行う「地域創生人材育成プログラム」があります。この春、グローバル人材育成プログラムに14名、地域創生人材育成プログラムに14名が申請し、これから様々なプログラムにチャレンジします。修了要件を満たすとプログラム修了証書を授与します。

富山短期大学

南砺市長 田中 幹夫氏から地方創生について学びました

平成29年5月10日(水)教養総合科目「現代社会と人間」の授業の一環として、南砺市長の田中 幹夫氏に「南砺のまちづくりから日本を考える」という演題で講義をしていただきました。南砺市とは、平成27年10月に本学および富山国際大学と包括連携協定を締結しました。

講演では、「三流の都市より一流の田舎をめざす」として、「特徴があり住みたいと思われる市にするため、認知症になったとしても笑顔で過ごせるようなまちづくり、フィンランド発の結婚から妊娠・出産、そして子育てまで切れ目のない支援をするネウボラの南砺市版を推進し、2060年の南砺市人口目標を3万人維持とするなど、今後の日本を担っていく18・19歳の学生の皆さんと一緒に話し合っ、よりよい南砺市をつくっていききたいと抱負を述べられました。



富山国際大学附属高等学校

新入生を迎えて



本校は平成29年4月8日(土)に入学式を挙りました。真新しい制服に身を包んだ270名の新入生を迎え、今年度は全校生徒839名でのスタートとなりました。定員はここ数年安定して確保できていますが、それに加え、近年は入学生生の志望に変化が見られます。現3年生が国際英語コース1クラス、特進コース1クラスなのに対し、2年生では国際英語1クラス、特進2クラスとなり、今年の新入生では、国際英語2クラス、特進2クラスと全クラスの半数を特進系のクラスが占めるという、過去に例のない状況となっています。

生徒たちの英語を身につけたい、学力をつけたいという思いに応え、生徒それぞれの自己実現の手助けができるように、ICT教育、グローバル教育、ESDを三本柱に、教職員一同、力を尽くしていきます。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

地域伝統の獅子が幼稚園に来たよ！

平成29年4月8日(土)に幼稚園で親子交流会を開催しました。親子で登園して、各クラスで自己紹介をしたり、簡単なゲームをしたりして、家族ぐるみで交流しました。

この日は願海寺・野々上地区の春祭りの日でもあり、獅子が幼稚園に訪れて、園庭の満開の桜の木の下で、勇壮な獅子舞を披露していただきました。園児たちは、獅子の中に入れてもらい様子を眺めたり、獅子に噛んでもらったりと獅子舞を見るだけでなく、獅子とのふれあいも体験することができました。

獅子舞保存会には、幼稚園の子ども達の保護者や卒園生がたくさん参加しています。毎年、春の訪れを楽しみながら園庭で舞ってくれる獅子に親子で楽しいひとときを過ごすことができました。

